情　報　提　供

国土交通省北陸地方整備局
新潟港湾空港技術調査事務所

平成２２年１２月１０日

第４回　企業技術説明会を開催しました

新潟港湾空港技術調査事務所では、10月20（水）付けで、情報提供させていただいた「第４回企業技術説明会」を下記のとおり開催しました。

本説明会では、『民間等で開発された新技術を管内インフラ整備に有効活用するための情報収集』、『民間等における技術開発の現状と動向の把握』、『官民の情報共有』を目的として民間企業の皆様より、整備局職員に対して説明が行われました。

記

１．開催日時：平成22年12月３日（金）13：30〜16：20
２．場　　所：国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所 ３F会議室
３．発表技術：発表技術の概要については別紙参照

	発表技術名称	発表企業等
1	高耐波安定性消波ブロック（グラスプ）	日建工学（株）
2	２段タイ材地下施工法	若築建設（株）
3	低天端有脚式離岸堤バリアウィンT	東洋建設（株）
4	SAVE・SP（セーブ・エスピー）工法	（株）不動テトラ
5	生物共生型多孔質ブロック	本間コンクリート工業（株）
6	潜水作業管理システム	（株）本間組

応募技術の６題を発表していただき、発表後には活発な質疑が行われました。
本説明会の次回開催は来年度を予定しております。

企業技術説明会開催状況

お問い合わせ先

国土交通省北陸地方整備局　新潟港湾空港技術調査事務所

TEL０２５－２２２－６１１５　　技術開発課　関口・田邊

第4回　企業技術説明会　発表技術一覧

No.	技術名称	使用可能な工事	技術概要	開発会社	備考
1	生物共生型多孔質ブロック	防波堤被覆の藻場造成工事等	生コンとカキ殻で表面が多孔質なブロックを製作し、そこに多種・多様な生物の生息を可能にする。生コンとカキ殻を同体積使用することにより、産業廃棄物であるカキ殻の消費を促進する。	本間コンクリ―ト工業株式会社	
2	2段タイ材地下施工法	控え式矢板護岸の補強、リニュ―アル	「２段タイ材地下施工法」は、既設の控え式鋼矢板護岸の背後に新たな控え杭を打設し、小口径推進により、既設の前面矢板に新たにタイ材を設置することで、岸壁補強を行うものであり鋼矢板前面における水中作業が少ないために岸壁を供用しながら施工が行える特徴を有している。平成２１年度に、この新しい施工法が国内で初めて採用された岸壁改良工事を弊社が施工したことから、その工事報告を行うものである。	株式会社大林組、株式会社日本港湾コンサルタント、独立行政法人港湾空港技術研究所、東北地方整備局	
3	SAVE-SP（セ―ブ・エスピ―）工法	狭隘地や既設構造物直下の液状化対策	本工法は、流動化した砂を地中にポンプ圧入することで地盤を締固める工法。3ｍ×6ｍ程度の小型施工機を用いるので、狭隘地での施工が可能。また、直径10cm程度の小径ロッドで地中へ砂を圧送するため、既設構造物への影響を最小限に抑えて施工できる。なお、地盤に圧入された流動化砂は、脱水と遅効性塑性化剤の効果で締まった砂になるので、充分な強度が期待できる。	株式会社不動テトラ	
4	高耐波安定性消波ブロック「グラスプ」	消波工	グラスプはPタイプとRタイプがありは左右非対称型で乱積みに適しており、Rタイプは左右対称型で層積みに適している。非常に安定性が高く、従来技術に比べ所要重量を軽減できるため、離島等大形重機の調達が困難な場所で有効である。また、所要重量の軽減により使用するコンクリ―ト量が少なくなるので、コスト縮減を図ることができる。	日建工学株式会社	
5	潜水作業管理システム	ブロック据付工、基礎捨石工	潜水作業の安全生と水中作業効率の向上を目指した潜水作業管理システム。「潜水深度、潜水時間」、「潜水士と作業船舶等の位置情報」と「ブロック据付位置や吊荷位置」を一元管理。	株式会社本間組	
6	バリアウインT	海岸侵食対策	水平床版を持たない3枚の鉛直スリット壁と側壁で構成される函体を鋼管杭で支える消波構造物で，背面壁以外は水面下となる低天端構造でありながら，従来の海域制御構造物と同等の消波性能を有する．また，沖合に設置することにより，堤体背後に静穏な海域が創出されるので，海岸侵食の防止と同時に海洋性レクリエーションや水産活動の促進など多目的な利用を可能とし，堤体背後の海域の良好な海水交換が期待できる．	東洋建設株式会社	